

一方、食料・飲料卸売業が業務用食材の需要増などにより増加、各種商品卸売業(商社など)が原油や液化天然ガスの輸入増や自動車の輸出増などにより増加、建築材料卸売業も建築需要増などにより増加となった。

ア. 業種別の動向

- ① 各種商品卸売業(商社など)は、原油や液化天然ガスの輸入増や自動車の輸出増などにより、前年同期比 4.3%と5期連続の増加となった。
- ② 繊維品卸売業は、繊維用糸・繊維製品の輸出入の減少などから前年同期比▲4.0%と2期ぶりの減少となった。
- ③ 衣服・身の回り品卸売業は、天候不順の影響などにより、前年同期比▲3.0%と23期連続の減少となった。
- ④ 農畜産物・水産物卸売業は、穀物類の輸入減などから、前年同期比▲2.2%と23期連続の減少となった。
- ⑤ 食料・飲料卸売業は、業務用食材の需要増などにより、前年同期比 5.2%と8期連続の増加となった。
- ⑥ 建築材料卸売業は、建築需要増などにより、前年同期比 3.4%と7期連続の増加となった。
- ⑦ 化学製品卸売業は、有機化合物等化学製品の輸出入減などにより、前年同期比▲6.9%と6期連続の減少となった。
- ⑧ 鉱物・金属材料卸売業は、鉄鋼の輸出入減や非鉄金属の輸入減に加え、価格低下の影響などから、前年同期比▲4.4%と3期連続の減少となった。
- ⑨ 機械器具卸売業は、前年同期比▲3.5%と3期連続の減少となった。内訳をみると、電気機械器具は半導体等電子部品の輸出減や音響映像機器の輸入減に加えて、薄型テレビが国内向けの不振などにより減少、一般機械器具も加熱用・冷却用機器の輸出減などにより減少となった。一方、自動車は米国、中東向けの輸出やエコカー補助金制度の効果により国内向けが好調であったことから増加となった。
- ⑩ 家具・建具・じゅう器卸売業は、前年の復興需要や節電・暑さ対策関連商材の好調の反動などにより前年同期比▲1.5%と5期ぶりの減少となった。
- ⑪ 医薬品・化粧品卸売業は、医薬品の輸入増などにより前年同期比 0.6%と2期ぶりの増加となった。
- ⑫ その他の卸売業は、前年の震災によるたばこの工場の被災に伴う品薄の反動などにより前年同期比 2.3%と2期ぶりの増加となった。

イ. 大規模卸売業の動向

大規模卸売店の販売額は、26兆2063億円、前年同期比0.6%と2期連続の増加となった。

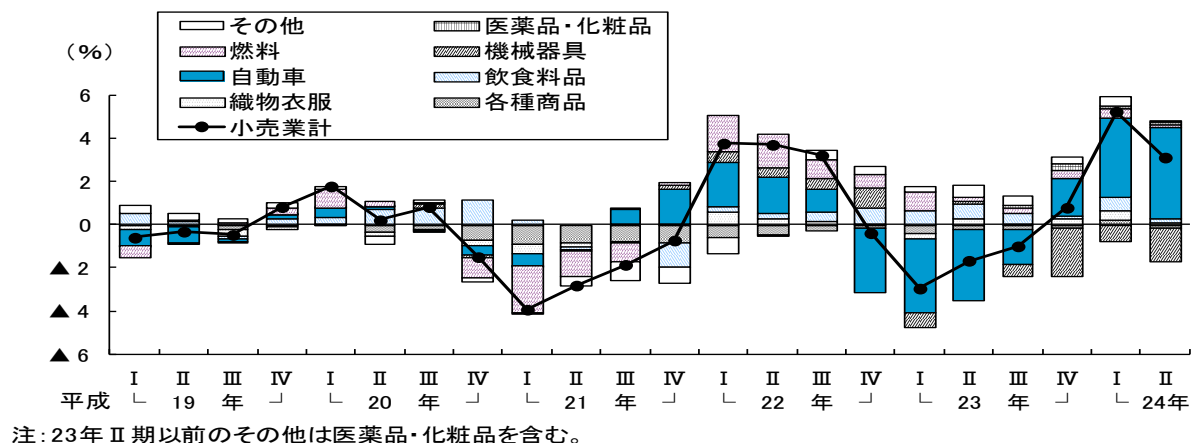
販売額を商品別にみると、家庭用電気機械器具、化学製品、その他の機械器具などが減少となったものの、石油・石炭、自動車、食料・飲料、その他の輸送用機械器具などが増加となった。

(2) 小売業販売額の動向

小売業販売額は、33兆9390億円、前年同期比3.1%と3期連続の増加となった。

業種別にみると、自動車小売業はエコカー補助金制度の効果や前年の震災による大幅減の反動などにより大幅に増加、飲食料品小売業は、天候不順の影響があったものの、4～5月は野菜の相場高などにより堅調に推移し、期全体としては増加、燃料小売業はガソリンなどの製品価格が落ち着いてきたことなどにより増加幅が縮小、織物・衣服・身の回り品小売業は、天候不順の影響により夏物商材が伸び悩んだものの、春物商材、初夏物商材が堅調に推移したことなどにより増加、医薬品・化粧品小売業はフェイスメイクやヘアケア商品などが好調だったことなどにより増加となった。一方、機械器具小売業は薄型テレビやBDレコーダが不調だったことなどにより減少、各種商品小売業(百貨店など)は、4月に中旬以降の気温上昇を背景に主力の春物衣料やクールビズ関連商品の好調、高額商品の好調に支えられ増加となったものの、5～6月は天候不順の影響などから主力の衣料品を中心に全般的に低調となり減少となった(第2図)。

第2図 小売業業種別寄与度の推移(前年同期比)



ア. 業種別の動向

① 各種商品小売業(百貨店など)は、4月に中旬以降の気温上昇を背景に主力の春物衣料やクールビズ関連商品の好調、高額商品の好調に支えられ増加となったもの

の、5～6月は天候不順の影響などから主力の衣料品を中心に全般的に低調となったことから前年同期比▲1.6%と2期ぶりの減少となった。

- ② 織物・衣服・身の回り品小売業は、天候不順の影響により夏物商材が伸び悩んだものの、春物商材、初夏物商材が堅調に推移したことなどにより前年同期比 1.7%と5期連続の増加となった。
- ③ 飲食料品小売業は、天候不順の影響があったものの、4～5月は野菜の相場高などにより堅調に推移し、期全体としては前年同期比 0.6%と10期連続の増加となった。
- ④ 自動車小売業は、エコカー補助金制度の効果や前年の震災による大幅減の反動などにより前年同期比 45.9%と3期連続の大幅な増加となった。
- ⑤ 機械器具小売業は、薄型テレビやBDレコーダが不調だったことなどにより前年同期比▲25.4%と4期連続の減少となった。
- ⑥ 燃料小売業は、ガソリンなどの製品価格が落ち着いてきたことなどにより増加幅が縮小となり前年同期比 1.4%と11期連続の増加となった。
- ⑦ 医薬品・化粧品小売業は、フェイスメイクやヘアケア商品が好調だったことなどにより前年同期比 1.1%と4期連続の増加となった。
- ⑧ その他小売業は、前年の震災により動きのあった節電関連商品などが反動で不調であったものの、DIY素材・用品や園芸用品などに動きがあり前年同期比 0.3%と4期連続の増加となった。

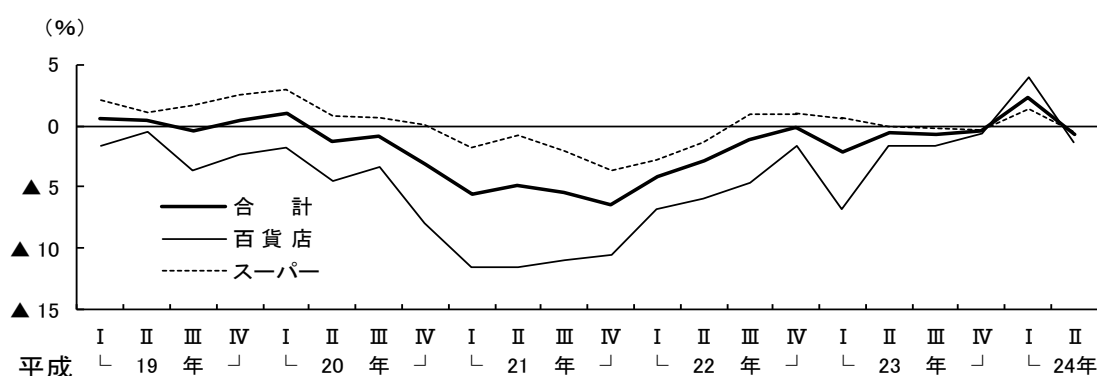
イ. 大型小売店の動向

大型小売店の販売額は、天候不順の影響などから衣料品や住関連商品が全般的に低調となり、4兆7099億円、前年同期比▲0.7%と2期ぶりの減少となった。

業態別にみると、百貨店が1兆5528億円、前年同期比▲1.3%、スーパーが3兆1572億円、同▲0.5%とともに2期ぶりの減少となった(第3図)。

なお、大型小売店の既存店ベースでみると、前年同期比▲1.3%と2期ぶりの減少となった。

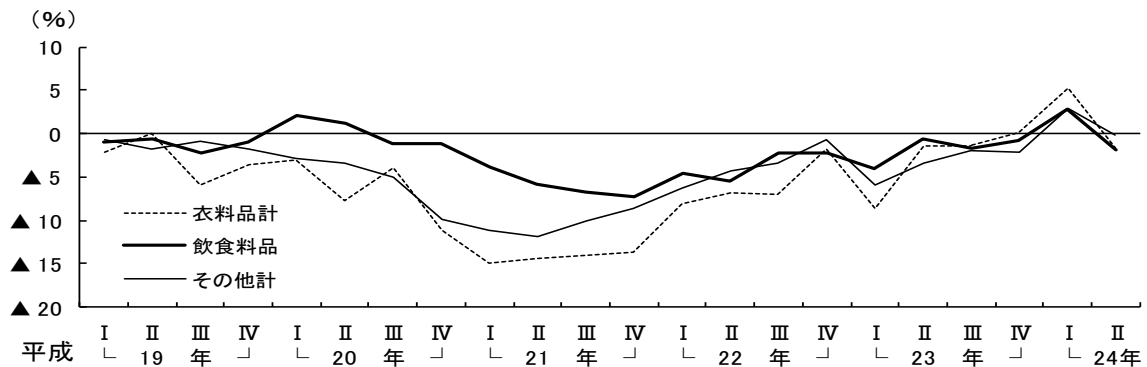
第3図 大型小売店(百貨店、スーパー)の販売額推移(前年同期比)



① 百貨店

百貨店は、4月に中旬以降の気温上昇を背景に主力の春物衣料やクールビズ関連商品の好調、高額商品の好調に支えられ増加となったものの、5～6月は天候不順の影響などから主力の衣料品を中心に全般的に低調となったことから、前年同期比▲1.3%と2期ぶりの減少となった(第4図)。

第4図 百貨店の販売額推移(前年同期比)



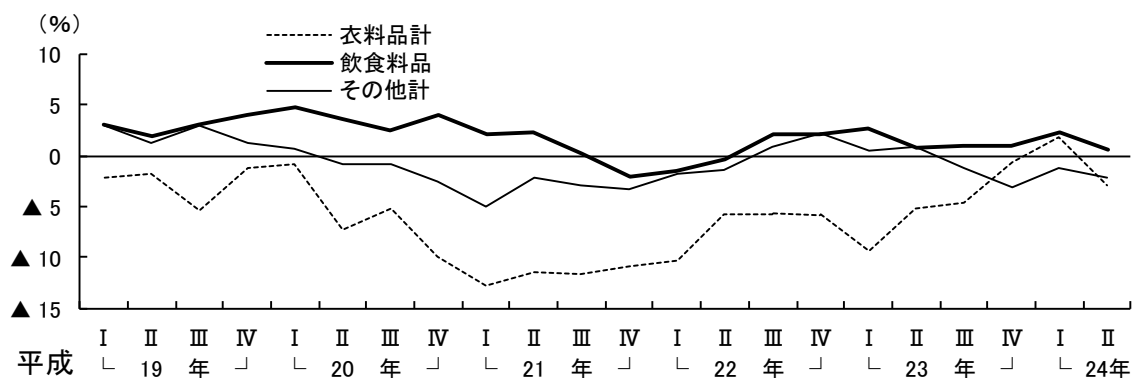
商品別にみると、衣料品は、4月に主力の春物衣料やクールビズ関連商品は好調であったことから増加となったものの、5～6月は天候不順の影響などから全般的に低調となったことから減少となった。飲食料品は、花見、母の日、父の日向けに惣菜などが好調であったものの、天候不順などが影響し全般的に低調となったことから減少となった。その他は、一部、高級時計などの高額商品は好調であったものの、家庭用品をはじめ家庭用電気機械器具や家具が低調であったことから減少となった。

なお、既存店ベースでみると、同▲0.2%と2期ぶりの減少となった。

② スーパー

スーパーは、野菜の相場高や内食志向を反映して飲食料品が好調に推移したものの、天候不順の影響や前年好調だった節電関連商品等の反動減などにより前年同期比▲0.5%と2期ぶりの減少となった(第5図)。

第5図 スーパーの販売額推移(前年同期比)



商品別にみると、衣料品は、期前半にクールビズ関連商品などに動きがみられたものの、期後半の気温低下の影響から夏物衣料の動きが鈍かったことなどにより減少となった。飲食料品は、ミネラルウォーターや缶詰など震災特需関連商品等は苦戦したものの、期前半の野菜などの相場高に加え、加工食品や惣菜などの簡便商品が堅調であったことから増加となった。その他は、DIY素材・用品などその他の商品、家具は好調であったものの、テレビなどの家庭用電気機械器具や家庭用品は不調であったことなどから減少となった。なお、既存店ベースでみると、同▲1.9%と17期連続の減少となった。

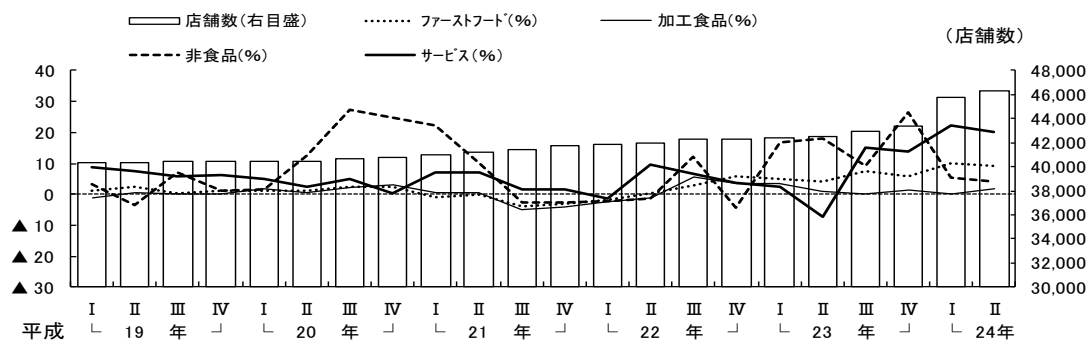
ウ. コンビニエンスストアの動向

コンビニエンスストアの商品販売額及びサービス売上高は、惣菜、ファーストフード、各種チケットが好調であったことなどにより、2兆3336億円、前年同期比5.8%と8期連続の増加となった。商品販売額は、2兆2253億円、同5.2%と8期連続の増加となった。

商品別にみると、ファーストフード及び日配食品が惣菜、ファーストフード、サラダなどが好調であったことなどにより、7882億円、前年同期比9.1%と9期連続の増加となった。加工食品は、ソフトドリンク、冷凍食品などが好調であったことにより、6334億円、同1.7%と8期連続の増加となった。非食品は、玩具、日用品が増加したことなどにより、8037億円、同4.3%と6期連続の増加となった。サービス売上高は、各種チケットなどの取扱い増により、1084億円、同20.0%と4期連続の増加となった。なお、既存店ベースでみると、合計が前年同期比1.6%と6期連続の増加となった。内訳をみると、商品販売額が同0.9%と6期連続の増加、サービス売上高が同17.9%と4期連続の増加となった。

店舗数をみると、6月末で4万6359店、前期末に比べ606店(前年同期末比4.3%増)の増加となった^{注)}(第6図)。

第6図 コンビニエンスストアの店舗数と販売額推移(前年同期比)



注)24年1月より調査対象の見直しを行った。前年同期比増減率はこの見直しに伴うギャップを調整するリンク係数で処理した数値で計算している。